

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 一般 - 105

学校名・団体名	高松市立川添小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	小学校英語教育における楽しい文字指導の在り方

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動に至る経緯

- (1) 児童の実態を把握し、「読むこと」「書くこと」につながる系統的な文字指導の試案を立案する。
- (2) 第3～6学年で、文字に関する単元やその後の帯活動での指導について指導計画を作成し、実践する。
- (3) 第5、6学年はワークシートを使ってアルファベットの書き方を練習する。
- (4) 研究の視点に基づいて研究授業を行い、研修を深める。（3年、4年）
- (5) 研究の計画や手順、「文字の指導計画」等について外部の指導者からの指導を基に、研究の方向として妥当であるかを検討する。意識調査、客観的な調査を分析することにより、成果や課題を分析する。

#### ○文字指導の目標（試案）

学 年	目 標
1・2年	・歌やチャンツでアルファベットの大文字に慣れ親しむ
3年	・アルファベットの大文字を識別することができる。
4年	・アルファベットの小文字を識別することができる。
5年	・アルファベットの各文字には音があることを知り、音をつないで身近な単語を読むことができる。
6年	・身近な単語を読んだり、自分にとって必要な英単語を選んで簡単な英文を視写したりすることができる。

#### 2 活動時期および内容

##### (1) 3年 アルファベットとなかよし ALPHABET （9月）

**目標：スモールステップでアルファベットの大文字の音と形に慣れ親しむ。**

2年生のときから、手遊びABCやアルファベットチャンツで、アルファベットの音に慣れ親しんでいた。2学期からは、電子黒板にアルファベットの大文字を提示し、歌やチャンツで楽しく文字の形や音に親しむことができるようにした。そしてクラス全員の名前のイニシャルをばらばらにして、自分のイニシャルを見付けるマッチングゲームをしたり、身の回りのアルファベットの大文字で書かれている看板などを読めるようにしたりした。

##### ①帯活動 アルファベットの音と形に慣れる

毎時間、帯活動で「手遊びABC」をすることで、全員が楽しくA～Zまで順番に歌えるようにした。次にアルファベットの音と形を一致させるために、電子黒板に提示されたアルファベットの大文字を視覚的に追って「ABCの歌」を歌った。一つ一つの文字の名前の発音を意識させながら歌った。児童は自分の体でアルファベットの形を作り、楽しく形を認識していった。また、「ABCの歌」に合わせてアルファベット文字を空書きした。



【写真1 アルファベットを空書き】

## ②アルファベット大文字の形に慣れる

児童は、日常生活で何となくアルファベットの形や名前を知っている。第1次では、絵の中にあるアルファベット文字を探した。見付けた文字を発表したり、一緒に発音したりした。第2次では、アルファベットのなかま分けをした。直線の文字や曲線の文字などの視点で、LとJ、VとYなどよく似た形のアルファベットを探していった。児童は文字の形に興味を持ち始めた。第3次では、自分の名前のイニシャルを知って、イニシャル探しゲームをした。文字学習を通してアルファベットに慣れるだけでなく、コミュニケーション力も高まっていった。



### (2) 4年 クリスマスカードを作ろう！What do you want?(12月)

【写真2 絵からアルファベット文字探し】

目標：アルファベット小文字の形と音を認識する。

帯活動では、アルファベット小文字の形と音の識別をするために、電子黒板でアルファベット小文字を提示し、歌やチャンツのリズムに合わせて小文字の形に慣れ親しんだり、アルファベットフォニックスチャンツで、アルファベット文字の「音」に慣れ親しませたりした。「お店屋さんごっこ」で自分の名前の小文字を集めて、ファイルに自分の名前を貼る活動をした。また、本単元では、足りない小文字を集めて、“Merry Christmas”の文字を完成させ、クリスマスカードを作る活動にもつなげた。

#### ①帯活動 アルファベット文字の音をつかむ

児童は、ひらがなと同じように、アルファベットの名前がそのまま音として発音されると思っている。アルファベット文字にはそれぞれいくつかの音があるが、その中で代表的なものを一つ取り上げた。アルファベット文字には「名前」と「音」があることを知らせ、「アルファベットフォニックスチャンツ」で、リズムに合わせて「音」を学んだ。「J(ジェイ：アルファベット文字の名前)、j, j(アルファベット文字の音)、jet(jから始まる単語)」をリズムに合わせて言った。このチャンツで、文字がもつ代表的な「音」を覚えていった。



#### ②足りない文字を集めて、文字を完成させる

【写真3 アルファベットチャンツ】

クリスマスカード作りでは、“Merry Christmas”の文字のうち、小文字3文字が抜けた袋を渡し、何の文字が足りないかを確認した。お店屋さんごっこでお店屋さんとして、友だちにほしいアルファベットをたずね、注文を理解して渡したり、お客さんとして自分のほしいアルファベットを伝えたりして、文字を完成させ、クリスマスカードに貼ることができた。



【写真4 お店屋さんごっこで文字集め】

### 3 子どもたちへの効果

- (1) 帯活動で歌やアルファベットフォニックスチャンツで文字指導を取り入れることで、児童の情意フィルターを下げ、児童の意欲を高め、不安を取り除くことができた。また、帯活動で継続的に文字指導を入れることで、中学年から英単語が読めるようになり、6年生も3～4文程度の英文が書けるようになってきた。段階的に楽しい文字学習を取り入れることで、コミュニケーション活動につなげていくことができた。
- (2) 児童の意識調査から、95%の児童が英語学習への肯定感もち、意欲が向上したことは大きな成果である。
- (3) アルファベット文字を提示するときに、視覚支援として、電子黒板を活用したことで、96%の児童が「授業が分かりやすい」「電子黒板の授業が好き」と回答した。文字指導において、電子黒板等を効果的に活用することで、分かりやすい授業を展開することができた。